



9/22

お母さん、おばあちゃんと楽しい思い出を 秋のにこにこ遠足（神林総合運動公園）

神林子育て支援センター主催の「秋のにこにこ遠足」が行われ、未就学児とその保護者、総勢13組が参加しました。

遠足では宝さがしゲームが行われ、子どもたちは芝生広場をかけ回り、われ先にと宝ものを探しました。探し当てたお宝入りのカプセルの中には、キャラクターのシールやどんぐりなどで作られた飾り物が入っており、子どもたちは早速、バッグなどに飾り付けていました。

コロナ禍で外に出て遊ぶことが難しい状況ですが、子どもたちも保護者も笑顔溢れる楽しい遠足になりました。



▲元気に宝ものを探す子どもたちと保護者

9/26

スポーツの秋！野球大会開催！ 村上市民野球大会（朝日多目的グラウンド）



▲ハツラツとプレーする参加者

爽やかな秋空のもと、今年も朝日多目的グラウンドで「村上市民野球大会」が行われました。コロナ禍の感染対策として、参集資格を郡市内在住の中学生以上に限定し、5チームによる変則のリーグ戦となりました。

地域で活動するチームのほか、スポーツ少年団OBの中学生や、高校3年生有志の編成チームなどが出場。大会では、さすがらしく楽しそうな笑顔が見られ、豪快な満塁ホームランや隠し球によるトリックプレーもあり、大会を盛り上げていました。大会結果は次のとおり。

優勝：新潟North6 準優勝：村上リトルファイターズ

～9/30

認知症とその家族を支え、自分ができることを考える 村上市オレンジプロジェクトを開催（市内各地）

9月の「世界アルツハイマー月間」に合わせ、認知症になっても安心して暮らせる地域をつくるために、認知症啓発活動の一環として「村上市オレンジプロジェクト」を実施しました。

村上駅前の歓迎塔はオレンジ色にライトアップされ、市内各地でオレンジのイメージカラーを活用し、啓発活動が展開されました。

今、高齢者の4人に1人が認知症または認知症予備軍（軽度認知障害）と言われ、決して他人ごとではなく、誰にでも起こりうる身近な問題となっています。認知症になっても安心して暮らせる地域をつくるために、一人一人ができることを考え、実行していきましょう。



▲市役所ホールを飾り付けしてPR

9/27

生産から商品まで、生徒の想いのこもったお米、いかがですか 生徒のお米、ふるさと納税返礼品に追加（村上桜ヶ丘高等学校）



▲市外の人にお知らせください

市のふるさと納税の返礼品に地元村上桜ヶ丘高校の生徒の皆さんが育てた新米が加わりました。

この取り組みは、「頑張っている高校生の皆さんが丹精込めて作ったお米を全国に発信したい」との想いから、越後村上物産会が提案し実現したものです。

返礼品は、村上市外在住で10,000円の寄付をしていただいた人が選択でき、「岩船産コシヒカリ2*₆(2*₂)2つ、岩船産コシヒカリキューブ300*₂2つ」が届けられます。お米の袋には、生徒の考えたデザインがプリントされており、返礼品と一緒に、生産した生徒の直筆のメッセージが添えられています。



9/30

前回訪問時の約束を果たす、笑顔の凱旋

東京2020パラリンピック銅メダリスト、永田務選手が表敬訪問（市役所本庁）



▲拍手で迎えられた永田選手



▲メダルの汚れは、触れてくれたたくさんの人の笑顔の表れと話す永田選手

前号でも紹介した永田務選手が市長を表敬訪問し、出迎えた市職員から拍手で迎えられました。

市長への報告の中では、新型コロナウイルスが流行し始めたころに行われた国際クラス分けの認定時の苦労話や、大会の2カ月前、全面的にサポートしてくれる企業によって練習に専念できたことなど、これまでの経路を交え、終始和やかに歓談されました。

永田選手は「こうしてメダルを獲れてあいさつができることにホッとしています。一時、4位に落ちた時はこのままで帰れるのかという怖さがあったが、本当にたくさんの人に助けってもらった思いと、沿道から時折聞こえる“ながた”の応援が最後に力を与えてくれました」と応援に感謝していました。

今後、当面の目標は「自己ベスト更新はもちろんのこと、2時間18分台を出すこと。母校の陸上部が活躍している声を聞くことがうれしいので、一緒に練習をしたり、伝えられることがあれば関わっていきたい」と話してくれました。

永田選手に
市民栄誉賞
授与が決まりました!

おめでとう
ございます

10/3

木漏れ日の中、景色と自然を楽しむ

笹川流れトレッキングロード散策（板貝・笹川集落）



▲道中で草花の説明を聞く参加者

気持ちのいい秋晴れの中、山北地区公民館が主催する「笹川流れトレッキングロード散策」が開催され、市内各地から32人が参加しました。

板貝集落と笹川集落を結ぶ2.4km(約)の木漏れ日が差し込む遊歩道で、いわふね自然愛好会の方々から自然観察のポイントや草花のお話を聞きながら、ゆっくりと散策を楽しみました。

参加者からは「景色を楽しみながら秋を満喫できた」などの感想が聞かれ、次の開催を待ち望む声も上がっていました。

10/5

圏域は50万規模! 経済、観光の連携に期待大

鶴岡市の事業者と観光連携協定締結（市役所）

市と株式会社庄交コーポレーション（山形県鶴岡市）は、市の魅力発信や庄内および隣県各エリアとの観光交流人口拡大を通じた一層の活性化を図るため、「マイクロツーリズムによる広域連携および観光交流人口拡大」に係る観光連携協定を締結しました。

本市は鶴岡市と生活や文化などでこれまでも深いつながりを持っており、コロナ禍で激減したインバウンド効果の回復などを図っていくこととしました。

國井社長は「歴史的に濃い結びつきがあるので、これらを上手に描きながら双方の交流ができるよう、今までにない魅力的な観光商品を急いで作りたい」と意気込みを語ってくれました。



▲県境の概念を無くしたマネジメントが期待されます